



日本福祉大学

2019年度 第16回 福祉用具アイデアコンテスト



自由課題 **優秀賞**

「対面切り替えハンドル ~eye to eye~」

関戸 健太さん (愛知県東邦高等学校3年)

車いす利用者と介助者が顔をみて会話でき、笑顔が増え、コミュニケーションがとりやすくなるアイデアです。

対面用のハンドルを車いすのアームパイプに装着します。車いす利用者と介助者が向かい合う事ができるため車いす利用者の声が聞こえにくいなどの問題が解決します。



- 顔が見えない
- 利用者が前に向かって話すため声が聞き取りにくい
- 利用者と介助者の視野に約50cmの差があるため意思や感じたことが伝えづらい
- 介助者が数人いる場合、前を向いている利用者は会話に入りにくい



対面用ハンドルを車いすのアームパイプに装着

- 目と目を見て会話ができる
- 顔色や体調を把握できる
- 意志が伝えやすい
- 笑顔になる
- コミュニケーションがとりやすく外出の機会が増える



- 軽量の材質
- ハンドルは着脱式で各種車いすに取り付け可能

- ブレーキがないため、買い物や安全な場所での散歩などTPOに合わせて使用する